

刊夕日二十月十



刊日
定価 一部金五圓 一ヶ月金五拾圓 三ヶ月金一拾圓 半年金一拾八圓 一年金三拾圓
発行所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

伊藤公三

ビスマルク

官僚政治と政黨政治

堀切 善兵衛

(一)

獨逸帝國の建設者がビスマルクであつたことは、兒童走卒といへども之れを熟知してゐる、彼れはウイリアム老帝を輔けて、獨逸帝國の覇業を築きあげ、老帝の崩御後はフレデリック三世を輔けたが之れは僅かの間で、其崩御後はウイリアム二世を輔け實に三代に仕へて大宰相の任務を盡したのであつた。彼れは獨逸帝國の興隆を期し、カイザーの權威を偉大ならしむる爲めに、有らゆる努力を拂ひ

生花は正面から慎んで見ると、花びきで脇から眺めたり花器を覗き込むものではな

寝ても醒めても之れが爲めに盡瘁したことは是れ亦顯著なる事實である。

我が日本の政治家でビスマルクに匹敵するものを求めるならば、先づ伊藤博文公であらう。我が國では獨逸と違つて、建國に與つて力あつたものは獨逸におけるビスマルクの如く只一人に限られて居ない。最初

は維新の三傑、續いて伊藤山縣その他の諸氏の協力の結果に俟つところ多いが、この中で比較的永い間、政治の中樞に坐し、且つ寢て

…明日の日…

- 【朝】味噌汁―若芽 小付 佃煮わさび漬
【書】フライ―サンマ ソース 松茸 ケチャップイタメ
【晚】竹輪煮付

も醒めても帝國の興隆の爲めに明治大帝の稜威を輝かさん爲めに渾身の力を振つたものは誰ぞと云へば伊藤公を推さざるを得ない。

彼の有名な『豪氣堂々横大空、日東誰使帝威隆』の詩の如き、伊藤公の赤心の流露であつて、固より伊藤公に當敵すると同時に、ビスマルクにもビタリとあてはまるのである。

俳句

秋 重森 萩江
道ばたの萩に馬糞のかゝりたり
秋出水草の上行く渡し舟

杉山に目を沈ましつ秋の風

人酔うて罵りあへる秋の風
こほろぎの鳴く草原に立ちにけり

山門や一風吹きし松落葉
秋蚊張の金具手馴れてたみけり

雁わたる夜の長雨や磯近し
初秋や青柿落ちてころびけり

秋近くさびしう咲きし楮梗かな
初秋や渚に残る貸ボート
萩咲くに嬉しく山を越しにけり

秋の夜や螢が家をもるわらきぬた
ほ茫の月に吹かるゝ砂丘かな
すいれんに降るとは見えす小糖雨

蝶二つもつれて飛ぶや青芒
虫なくや十六夜月の野の明り
草々や風吹けば秋の聲生れて

落葉
友逝きてかたる淋しき冬の夜
冬の日や校庭の隅の枯落葉
木枯の吹さくたびれて暮れにけり

透明障子紙

意匠登録 第六三七八號
本品は室内用、室外用の二種あり
室内用は張方従来の通り生糊にてよろし
室外用は特に室外用ノリにて張ればよろし
本品は硝子、セルロイド以上の優秀點を具備す
雨と風との神様が兩神一緒に暴れても室外用は平氣なり
現品は普通障子紙巾にて(長さ九メートル)
◎定價
室内用 六十錢
室外用 八十錢
平町四丁目
夕伊勢屋 阿部商店
電話四五番
●賣弘め中粗景手拭一本呈上

各婦人雜誌推獎
S式高速編物器
編物講習會
自十月二十一日(五日)至同二十五日(五日)間
會費 一圓
講師 大日本編物研究會 松井富美子先生
會場 平田町(電話一四番) ハシモトヤ糸店階上
―上品な副業として収入を望まれる受講生には編物の御世話致します―

開業御披露奉仕

一圓で
お酒に三品(外に)
永年谷口樓でお得意様の御用を勤めました。が今回左記の通り開業致しました。何卒御ひるきを願ひます。
平町新田町
三日 松
富
電話二四七番

吉田眼科病院
醫學士 吉田久雄
平瀬屋町電話六八番

有給外務員數名募集
一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名
一、固定給の外旅費支給す
御希望の方は履歷書持參來談を乞ふ
(明治十四年創立)
(保險の開祖)
明治生命保險株式會社
事務所
平野 康
小野 勝
平・仲町

中村齒科醫院
平町鍛冶町七
耳鼻咽喉科専門
平田町(電話六九二番)
山内醫院
醫學士 山内亨吉
病院完備 自炊便有

木村病院
平町新川町十九
電話六四番
入院隨意 病室完備
產婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 立番彌一

けふの味方を...

敵に廻して秘策

高松巡査の轉任で

平署剣道の悲壯な決意

平署高松巡査は別項の如く白河署に榮轉したが同巡査は昨年四月共產黨檢舉の際に平町城山にあつた全協オブルグ小川治雄と佐藤ヒロの隠家を發見して

大功を樹て最近に於

ては舊盆十七日朝鎌田遊廓内を制して警戒勤務中逆恨みの爲暴行袋叩きにせんとした不良連を反つて縛り上げる等常に第一戦に立つて活躍し「平署のタカマツ」の名を聞けば街の

與太者 連も縮み上る

といふほどであつたが彼一度剣を取れば剣道四段の猛者「剣道王國平署」ピカ一の闘將として

縣下に 名を馳せ

昨秋の各署對抗武道大會に平署が十數年振りて優勝旗を石城の野に運び來つたのは實に彼の健闘に負ふところ多大であり平署の至寶として再び

今秋の 大會に連勝せ

んとしてその意氣壯なるものあつた矢先今回の轉任は正に剣道王國平署には餘りにも大きな損失でなければならぬ、而も昨日の友

矢面に 立ち一舉に平

署の陣容を撃破せんとするのだこゝに平署の人知れぬ

數日後に迫つた十八

日の大會を控へ鈴木師範の許に遠藤三段以下残された劍客連悲壯なる決意を抱きつゝ更に昨日に數倍する激烈なる猛練習を開始した

共同米入札

前日より高値

既報平農倉庫の共同販賣は昨十一日午後一時より行はれたが平扱ひの五俵は一俵十一圓五十二錢で根本品藏氏に同く平の二俵は十圓五十錢で馬目太市氏、植田扱百七十二俵は十一圓六十六錢で菅野今朝治氏、勿來の三十三俵は十一圓七十二錢で山形忠治氏に夫々落札したが今回の最高入札十一圓七十二錢は前回に比して一俵に付いて二十六錢の高値を見た

中ノ作築港は

遣り直しか

港内土砂に埋る

山口土木技師けふ踏査

既報一激浪の爲缺潰流失した江名中ノ作築港締切防波堤は工事完成を目前に控へてゐたけに地元の打撃は非常なものであるが縣土木課でも竣工を急いでゐる關係上應急對策に腐心し山口土木技師はこの被害調査の爲昨夜急遽來平けふ現場踏査したが

所得調査委員

當選確認

けふ選舉會で

昨報所得調査委員の選舉會

海軍志願兵が少い

目下平町では僅か五名

採用難に尻込みしてか

表面の被害は一締切防波堤五十米が流失したけでこれが復舊には約千五百圓を要する程度であるも防波堤の流失によつて泥土砂岩等港灣内に侵入したものとすれば折角浚渫完成した同工事も根柢から遣直しせねばならぬやも計難い爲實際の被害程度は再び採水作業を終

平町では目下海軍志願兵の募集集中であるが今月末の締切までに半月を餘すのみの現在同町役場に提出された願書は僅かに五名に過ぎず係員も締切の切迫とともこの應募者の減少は意外

母校の名譽を

双肩に擔つて

磐女呼びもの、小學繼走選手意氣込む

既報來る十七日開催される磐女陸上運動會の郡下小學校児童百米及び四百米繼走の出場申込みは昨年優勝の平第二小學校を始め第三草野、好間、小川、神谷、四倉、赤井、内郷、高坂、江名の十校に達し前人氣壯なものがあるが同競技の各係員は左の如く決定した

酒造家の

懐ろ工合

第二期納期に

どう現れるか

平稅務署では今月末の酒造稅第二期納期を控へて目下納入方を督勵してゐるが今期調定額は三十七軒十四萬三千三百三十二圓七十五錢七月末の第一期は懇切までに完納して近年に好

第三校の

出場選手

平第三小學校

では來る廿日警中グラウンドに開かれる第三區小學校兒童競技會の出場選手を左の如く決定したが同校選手は昨年五十米、走巾跳、リレ一の三種目に優勝して居るので本年度選手も非常な意氣込で練習して居る

△五年(百米) 山本六郎 高橋一雄 織田マサ 野澤登記枝(巾跳) 小松伸太 山本六郎 織田マサ 野澤登記枝(籠球) 佐藤一郎 小松伸太 青木ツル 五十嵐美智子(繼走) 男生 山本 高橋 小松 小野 女生 織田 野澤 鈴木平 △六年(百米) 國井定員 久保木滿次 白土貞子 遠藤キミ(籠球) 吉田義男 金成柱一 笹越アイ 王 木勝子(繼走) 男生 今田 武田 國井 久保木 女生 遠藤 白土 植松(ハドル) 今田實 小野務 (高跳) 今田實 武田省三 (巾跳) 白土貞子 植松喜美子

分團繼走

新川町優勝

既報去る十日の第三小學校秋季運動會の呼物であつた通學區域内青年分團の八百米リレーは四チーム出場したが新川町分團が前年に引續いて優勝したメンバー左の如くである

鈴木泰久 吉田勝彌 高野正次 山崎政明

青訓聯合

演習協議

青年訓練所郡聯合は本日午前十時より平第一小學校會議室に於て評議員會を開き豫算決算並に今秋の演習聯合演習實施の件に就いて

警察 辭令

平署巡査 高松五郎 命白河署勤務

數學擔任出張

郡中學校數學科協議會は來る十六日相馬中學校に於て開かれるが磐中よりは梶原下平、谷澤、山路の各教諭が出席する

凶作は決定的

連日續く天の悪戯

郡農會の調査は五割減

蜂谷柿も苦境は救ひぬ

近年稀有の天候不順に依り今年度米作は關係各筋から悲感されてゐたが九月の結實期に至つても依然として天候稀復せず遂に凶作は決定的となり

の秋で平年作に比較しても三割減収といふ十數年ない凶作ぶりであるこの凶作の結果は現在の米價高を更に急激なる奔騰を必然的ならしめる危険性があり飯米缺乏と米價高に泣く農民雨に祟られる自由労働者の群とに灰色の空氣は次第に重壓さを増してゆくばかりである、こゝに例外なのは昨年減収の蜂谷柿は今年に反對に

農民の惨苦は言語に絶するものあつたが更に最も重大なるべき昨今の成熟期に至つても天の悪戯は止まず早くも落葉たる冬の訪づれを思はせるに至つた郡下の稲作はために甚大なる被害を受けて

郡農會 當局の最近の調査に依れば昨年の五割減でその豫想收穫高は十萬三千二百三十五石と發表した昨年郡下の總收穫量二十一萬石といふ大豊作に比較して正に今年は凋落

大増収で約五十餘萬

實の收穫を豫想されて居り昨年の二十九萬貫と較べると四割強の豊作であるが是れとて米作減収の痛手に依る農家經濟のバランスを合せる程には至つて居ない

ぬれ米

拂下げ希望

忽ち二千七百俵

現品は一週間後に到着

昨報縣よりの急報に接した平穀物検査所が大阪市の水保管米を一俵六、七圓で拂下る爲め是が希望町村を

本日正午迄に取纏るべく大童で活動した結果忽ち同所管内十二ヶ町村より合計二千六百八十俵の多數の希

飯米の不足

平町を筆頭とし

十一町村に七萬五千石

平穀物検査所では濡米拂下を好機として拂下希望町村に於ける本年收穫期迄の飯米不足高を調査報告せしめた處平町の二萬石を筆頭として郡下十一町村實に七萬四千五百八十石の飯米不足が判明した

磯松を嘆く……

警中の辯論選手 既報警中辯論部より關東北北海道中等學校辯論大會に出場する選手は五年鈴木節吉君と決定演題は「磯松の嘆」である

児童出陳書方

既報 來る二十三日開催される郡山市制十周年記念縣下児童成績品展覽會に出陳すべく

明日のラジオ

十三日

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話し人語めぐり第七回
- 醫學博士 内村良二
- 後六、二五 基礎英語講座
- (一三) 岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演「世界經濟」
- 玉川一〇〇 渡邊一六〇
- 警崎三〇〇 内郷五〇〇
- 好間一三〇 平窪六〇
- 小川二五〇 湯本五〇〇
- 川前一六〇 神谷一六〇

天の氣豫報

今晚も明日も北西の風小雨模様 後晴曇半す

明日の部

- 後九、五五 日本秋季大手合戦績
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告
- 前六、三〇 基礎獨語講座
- (一四) 岡本修助
- 前七、〇〇 一聖典講義
- (六) 文學博士 飯島忠夫
- 前八、〇〇 お會式法要實況
- 東京池上本門寺より中繼
- 後〇、〇五 祭囃子解説
- 安藤信

乗降者は減でも貨物は増加

平驛去月中の運輸狀況

十六噸で昨年同期より千八百三十八噸を増し到着も一萬三千三百三十九噸で昨年より五千七百七十四噸の増収入高は八千八百八十一圓六十五錢で七百七圓七十八錢の増を見せたはは、野菜、木材、鐵等の移出入が多かつた爲め旅客は依然自動車發展に阻まれて居る

義捐金提出

今十二日平町役場に提出された關西義捐金は鍛冶町の三十三圓十五錢である

女房の搜索願

平町關の上生れ群馬縣前橋市榮町大田喜好内縁の妻小淵シダ(三三)は去月十九日家出したが平町方面で女中奉公をしてゐるらしいと十二日夫から平署へ搜索願

再度の自殺

消防屯所内に若者の屍体

昨十一日午前十時頃飯野村大字谷川瀬消防屯所内に眼るが如く死んでゐる若男あるを飯野村消防副頭長山徳平さんが發見届出により平署員檢視取調べた結果右は鹿島村久保字山崎一四

百四件の飾り窓

平全町商店の取付數

一丁目 才植小路各七
南町 五丁目各六 新川町三 白銀 大工町 材木町各二 大町 研町 紺屋町 長橋町各一

内郷陸上競技 内郷第二(御座)小學校は來る十五日同第二(内町)小學校は十四日各校庭に於て兒童の陸上運動會を催す

児童出陳書方

既報 來る二十三日開催される郡山市制十周年記念縣下児童成績品展覽會に出陳すべく

乗降者は減でも貨物は増加

平驛去月中の運輸狀況

十六噸で昨年同期より千八百三十八噸を増し到着も一萬三千三百三十九噸で昨年より五千七百七十四噸の増収入高は八千八百八十一圓六十五錢で七百七圓七十八錢の増を見せたはは、野菜、木材、鐵等の移出入が多かつた爲め旅客は依然自動車發展に阻まれて居る

再度の自殺

消防屯所内に若者の屍体

昨十一日午前十時頃飯野村大字谷川瀬消防屯所内に眼るが如く死んでゐる若男あるを飯野村消防副頭長山徳平さんが發見届出により平署員檢視取調べた結果右は鹿島村久保字山崎一四

百四件の飾り窓

平全町商店の取付數

一丁目 才植小路各七
南町 五丁目各六 新川町三 白銀 大工町 材木町各二 大町 研町 紺屋町 長橋町各一

内郷陸上競技 内郷第二(御座)小學校は來る十五日同第二(内町)小學校は十四日各校庭に於て兒童の陸上運動會を催す

再度の自殺

消防屯所内に若者の屍体

昨十一日午前十時頃飯野村大字谷川瀬消防屯所内に眼るが如く死んでゐる若男あるを飯野村消防副頭長山徳平さんが發見届出により平署員檢視取調べた結果右は鹿島村久保字山崎一四

百四件の飾り窓

平全町商店の取付數

一丁目 才植小路各七
南町 五丁目各六 新川町三 白銀 大工町 材木町各二 大町 研町 紺屋町 長橋町各一

内郷陸上競技 内郷第二(御座)小學校は來る十五日同第二(内町)小學校は十四日各校庭に於て兒童の陸上運動會を催す

浮名新音頭

田邊南龍(作)
山本英春(書)

一五七:

忍んで權八が
扱三浦屋へ對しても、若
も權八が立廻つたら早速訴
へ出るやうにと觸れて來り
三浦屋の主人も、權八に同
情はしてゐるが小紫も大切
自分の家の暖簾も大切な
で、小紫や竹川に對して
『そんな事もなからうが若
も權八が尋ねて來ても、匿
まつて置いたり何かしては
ならん』

と意見を、今日も今
日とて主人が小紫の部屋へ
病氣の見舞がたら參つて權
八が確に江戸にゐる、しか
も吉原田圃で見掛けた者が
あるとかで、廊内は殿しい
御詮議萬一尋ねて來るやう
な事があつても、部屋の内
などへ忍ばして置いてはな
らん、大きな聲では云へな
いが若しも尋ねてお出でな
すつたら理由を云つて早く
お逃がせ申せ満更譯の分ら
ぬ平井様でもないから、岐
と私共の心持は察してお歸
り下さるに違ひないと、權
八がその部屋の内にあるの
を知るや知らず小紫、竹川
に話して戻つた、後で權八
が

『小紫、今の御亭主のお話
し一々胸に應へる、之は此
の上長居をして、御人

に御迷惑をかけるも氣の毒
故、私は之で立戻さうか
達者で暮らして呉るやう』
今は小紫も止めるに止め
られず、只泣いてゐるばか
り其の夜引け過ぎを待つて



竹川の手引きでソツと庭口
より忍び出で頭巾で面を深
く包み、丁度大門を潜つて
衣紋坂へ掛つて來ると、豫
て張込んで居りました岡ッ
引の象藏、重吉、新五郎の
三人を頭に七八人の者がパ
ラ／＼と飛出して來て權
八の廻りを取巻き

『平井權八、御用ッ』
と組附いて來た、權八ハ
ツと思つたが、どうせお繩
に掛るは覺悟の上ではある
けれども、まだ長兵衛と目
黒の隨川に遭はねばならな
いと思ふから、エイツと二
人ばかり取つて投げ、土手
上へ駆け上つて來る
『ソレ權八を逃がすな』
と聲を上げて追つて來る
此處で又二三人の者を投げ
飛ばしたが捕手は益々殖え

『御用ッ、神妙にしる』
遠くで聲をかけるばかり
其の間に權八は土手下へ駈
け下り田圃を抜け、森を抜
けなどして漸う危ふきを逃
れました、サア權八が吉原
へ現れたといふ事がバツと
擴まつたから、役人は鶉の
目鷹の目で詮議に掛つたが
何處へ行つたものかどうし
ても知れない、權八はどう
逃げ廻つてか、無事に小梅
の三五郎の處へ戻つて來ま
したが、三五郎に事情を打
明け

『今日一日匿まつて呉れろ
夜になつたら幡隨院の長兵
衛殿に面會をして、それよ
り目黒へ參り、隨川師にお
目に掛り其の夜自訴をいた
す考へであるから』
と頼みました、三五郎快
よく承知してくれましたか
ら、終日寝て暮らして疲れ
を休め、夜になると三五郎
に厚く禮を述べ、小梅を立
出でました。

ニクタク子

ニクタク子
電六四〇番

車体優美御用命は親切
迅速をモットーとす
洗練されたサービスは完全に
皆様の使用を果します

書道用半紙
厚口……一帖八錢
薄口……一帖五錢
畫仙紙
白唐紙
二双紙
色紙。短冊。畫帖。
各種取揃へてございます
マルトモ
柴田書店
平町四丁目
電話二二四番
御障子紙
一本(四枚張)金廿五錢
是非御用命をお待ち申
して居ります

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

◎御家庭薬として是非御用意下さい
熱い湯や火でヤケドなされた時直ぐツケますればヒ
ブクレにならずなほります
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料
で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さ
い。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキ
レイに治ります。

キリ印
ヤケド キリキズ
ヒキサ はだのアレ
シモヤケ たざれ
太乙膏
平町古鍛冶町一〇
阿康薬舗
電話四四番

新築 落成移轉
永らく御不自由相掛け申し上げて居りましたが此
度漸く落成移轉致しました。何卒倍舊の御引立の
程御願申上げます。尙新舖二階の客間は御
會食御家族同伴等江戸前式に設備致しま
した何卒御利用下さい。
平。三(舊店舖跡)
玉壽司
電五七五番

味覺の秋を樂しめる
香氣のよい松茸料理種々
——多少に不拘出前迅速——
仕出し
専門 錦水
電四五四

内科 外科 一般
金成醫院
金成忠義
平鎌田町(電三五八)